

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 異種ドメインユーザの行動予測を可能にするペルソナモデルの転移技術

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

原 隆浩 （大阪大学大学院情報科学研究科 教授）

主たる共同研究者

河口 信夫 （名古屋大学未来社会創造機構 教授）

小野 智弘 （(株) KDDI 総合研究所データインテリジェンス部門 部門長）

3. 事後評価結果

○評点：

A 優れている

○総合評価コメント：

本テーマは(1)ドメイン別のペルソナモデルの作り方、(2)ドメイン間の個人同定、(3)ドメイン間転移利用の研究項目からなるが、それぞれ計画された成果が認められる。多様なデータソースからのペルソナモデルの構築について、著名な国際会議に採択された手法の開発を含め、要素技術の開発に関して顕著な成果が得られている。

KDDI 総合研究所を含め、民間企業の実データを用いて実証実験を行い、ドメインをまたぐ商材推薦については、1500 商材中 10 件推薦の的中率が 26%という非常に高い精度を得ていることも評価したい。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて行動予測研究の進展が影響を受けている一方で、パンデミック下の消費行動変化のモデリングにも取り組んでいる。特許出願、社会的受容性を考慮した研究の推進、特に個人情報保護法の改正に関する配慮に改善余地がある。個人を特定することなく異種ドメインユーザの行動予測を行う本研究は、今後の個人情報保護の法規制の変化に対応しながら発展することが期待される。